

見逃しがちな 稼動リグ数増加

2016年6月14日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一
TEL 03-5221-4523

【海外経済指標他】

- ・重要な欧米経済指標の公表はなし。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

- ・前日の米国株は続落。英国のEU離脱問題を嫌気したアジア・欧州株下落の流れを断ち切れず、3日続落。WT I原油も3日続落となり48.88^{ドル} (▲0.19^{ドル}) で引け。
- ・前日のG10通貨はCADの弱さが目立った一方、SEK、JPY、DKKの強さが目立った。グローバルリスクオフの中でマイナス金利通貨が買われ、USD/JPYは106を割れた。EUR/USDは一時1.12前半まで水準を切り下げた後、1.13付近へと戻している。EURは、GBP下落の余波を受ける一方、リスクオフ下でのショートポジション巻き戻し圧力が強く、この1ヶ月程度は横ばい圏内での推移となっている。
- ・前日の米10年金利は1.610% (▲3.1bp) で引け。株安・原油安を横目に質への逃避がみられた。欧州債市場はコアが相対的に堅調、周縁国が軟調。ドイツ10年金利が0.024% (+0.4bp) で引けた一方、イタリア(1.455%、+7.2bp)、スペイン(1.502%、+7.4bp)、ポルトガル(3.221%、+11.8bp)は金利上昇。3ヶ国加重平均の対独スプレッドはワイドニング。

【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標・注目点】

- ・日本株は欧米株安に追随して安寄り後、下落幅拡大。日経平均はあっさりと16000を割れた。
- ・昨日発表の5月の中国鉱工業生産は前年比+6.0%と4月から横ばい。
- ・昨日発表の5月の中国小売売上高は前年同月比+10.0%と4月から0.1%pt減速。
- ・昨日発表の5月の中国都市部固定資産投資は前年比+9.6%と1-4月期の+10.5%から減速。
- ・上記3指標のうち、生産統計、小売売上高は中国経済が1Qの減速から立ち直りつつあるとの見方をサポートする一方、固定資産投資の急減速はやや気掛かりな材料。製造業投資が+4.6%へと1.4%ptも減速し、不動産投資も+7.0%へと0.2%pt減速した。
- ・今週から来週にかけては米FOMC(15日)、日銀金融政策決定会合(16日)、英国民投票(23日)と重要イベント目白押しだが、そうしたなかで原油価格の安定に疑問を投げかけるデータが発表されたことに一定の注意を払う必要がある。
- ・ベーカーヒューズが公表した米国内の稼動リグ数(オイル向け)は328基と前週から3基増加。WT I原油の50^{ドル}回復を背景に、2015年8月以来で初めての2週連続の増加となった。一部油井が採算ラインを回復したことを受けて、操業を再開したものとみられる。原油価格の安定を前提にすれば、これに追随してリグの稼動を再開する業者が増えそうだ。
- ・こうした動きは2015年夏場と酷似しており、上記イベント通過後に市場参加者の関心が向かう可能性があるため注意が必要だろう。当時の状況を整理する。2015年6月にWT Iが60^{ドル}を回復すると、その後の数週間で稼動リグ数が増加に転じ、米国内の原油生産は2015年4Qに減産が一服(年率2%程度増産)。原油生産の高止まりが需給懸念を増幅させると、その後の数ヶ月で原油価格は急落し、最終的にそれがハ

イ・イールド債下落などクレジット市場の収縮にまで発展した。稼動リグ数の2週連続増加が基調的なのか一時的なのか、或いは季節性によるものなのか判断するには時期尚早だが、漸く安定化の兆しがみえてきた原油価格に弱気な材料が出てきたことは軽視できない。今後、数週間は稼動リグ数、原油生産・在庫に注意が必要だろう。

